

## 次期「長野県文化芸術振興計画」策定に係る有識者懇談会（第3回）

### 議事概要

日 時：令和5年1月18日（水）午後2時～4時

場 所：長野県庁議会棟 第1特別会議室

出席者：

（構成員）石川 利江 氏、小澤 櫻作 氏、金井 直 氏（座長）、くすのき燕 氏、櫻井 弘人 氏、  
塚越 亮 氏、直井 恵 氏、ロジャー・マクドナルド氏

（長野県）県民文化部長 山田 明子、県民文化部次長 池上 安雄、文化政策課長 岩下 秀樹

#### 【会議事項】

（議題）

次期「長野県文化芸術振興計画」原案の策定について

#### （1）第1 計画策定の趣旨 ～ 第5 基本目標とめざす姿

##### ○くすのき 燕 氏

- ・基本目標とめざす姿は、文化芸術を活用するということが書かれている印象を受けるが、文化芸術そのものの良さ、文化芸術そのものの振興についても、もう少し入ってもよいのではないか。

##### ○ロジャー・マクドナルド氏

- ・基本目標の素案（文化芸術の力で支える、ひろげる、つなげる、信州のゆたかな未来）の「ゆたか」という言葉の裏にある想いを聞いてみたい。経済の豊かさや精神的な豊かさなど幅広いが、どのような意図があるか。

##### ○岩下文化政策課長

- ・高度経済成長期にはどちらかと言えば物質的な豊かさが求められてきた面があったが、近年はコロナ禍もあり、精神的な豊かさも求められている。
- ・現行の長野県文化芸術振興計画も同様の意味を含んでいるが、引き続き心の豊かさも追及していきたい。

##### ○直井 恵 氏

- ・第3「現状と課題」の2「文化芸術を取り巻く環境」の1番最初に少子化に関する記載（少子化と人口減少の急速な進行）が出てきているが、前回までの懇談会では触れていなかった気がする。第1のポイントとして挙げられている経緯を知りたい。
- ・人口が減っていくことが果たして不幸なのか、この辺りをどう捉えていくのが大事な気がする。

##### ○山田県民文化部長

- ・少子化と人口減少社会は、県全体の次期総合5か年計画でも大きなテーマとなっている。

コロナ禍でさらに出生率が落ち込んでおり、人口のバランスが偏っていく中で、この先、支える側の人達が少なくなっていくという危機感が行政としてある。

- ・次期総合5か年計画の中で女性や若者から選ばれる県づくりを打ち出しているが、県全体の魅力や活力を高めることも非常に大事だと思っており、一つの要素として文化芸術があると考えている。
- ・加えて、人口減少により文化芸術活動の担い手が不足するといった、直接的な影響もある。

#### ○塚越 亮 氏

- ・この計画が本当に目指しているところは何かというものを強くしてはいかがか。
- ・やはり人間は幸せを求めており、そこに繋がっていくことが実感できるようになるとよいのではないか。

#### ○岩下文化政策課長

- ・現行の県の総合5か年計画は「しあわせ信州創造プラン2.0」というタイトルであり、我々は県民が幸せになることが最大の使命だと考えている。
- ・文化芸術振興計画は総合5か年計画の中の個別計画として位置付けられており、そのようなことも包含した意味合いで基本目標の素案を立てさせていただいた。「幸せ」は大切なことなので、意識していきたい。

#### ○櫻井 弘人 氏

- ・第4「長野県の文化の特性」の3「地域ごとに形成されてきた特色ある風土」の中に「川」が出ていないが、信州にとって水系は大事な要素だと思う。
- ・一方で、1の「自然豊かな風景に人々の暮らしが溶け込み育まれる営み」では川についても触れられており、もう少し整理できるのではないかと思う。
- ・4の「学び」に対して積極的な県民性」に書かれている「白沢清人」という方は存じ上げておらず、あまりポピュラーでない気がする。信濃の国で歌われるような偉人であれば誰もが納得すると思うが。

#### ○小澤 櫻作 氏

- ・基本目標の記載は、創作活動や表現活動の印象が少し低いと感じた。
- ・第6の「施策の展開」では表現活動への支援についてかなり触れているので、安心はするが、基本目標やめざす姿のところでも、プロやアマチュアを問わずに表現活動を支援するといった印象があると、よりよいのではないか。

#### ○金井 直 氏（座長）

- ・第3「現状と課題」の2「文化芸術を取り巻く環境」の（6）多様性を認め合う社会づくりは非常に重要な観点であり、文化芸術の根本的なところだと思っている。
- ・ここで念頭に置かれるべきは、現在の戦争状態や、様々なハラスメント、表現の自由の議論などであり、つまり、アクチュアルで厳しい問題が入りこんでいる。そのことが読み取られる記述を目指していただきたい。

- ・めざす姿の(3)「文化芸術活動や伝統文化が地域で発展し、その価値が引き継がれている」について、文化芸術活動が地域で発展することはイメージが沸くが、伝統文化の発展というのは理解しにくい。説明文の記載も「記録・保護・活用」であり、発展の要素が入っていないので、文言の修正を行った方がよいのではないか。

## (2) 第6 施策の展開 ～ 第8 計画の進捗状況の評価・検証

### ○直井 恵 氏

- ・全体を見た中で気になる点として、具体的な取組を見ると、県立の施設が拠点となっている取組や都市部で行われている取組に目がいく。
- ・県立美術館や県立歴史館、県立図書館には上田市の子どもたちはほとんど訪れていない。県民芸術祭も興味関心がある方が関わるものという印象が強い。
- ・信州アーツカウンシルやうえだ子どもシネマクラブのような草の根の支援が地域で貴重な繋がりになっている。
- ・この計画がめざす対象として「すべての人」に具体的にどうやって届けるのが難しく、見えにくいと感じた。地域差が出てしまうともったいなく、もっと全県にいきわたるとよい。

### ○岩下文化政策課長

- ・県立美術館を例に挙げると、拠点が長野市にあるため南信の方が来館するのは難しいことは課題として認識しており、打破しないといけないと感じている。
- ・計画素案における県立美術館関係の取組では、アウトリーチ活動や、交流展による地域の美術館との連携等を挙げており、美術館が持っている資源を全県の皆さまに届けたいという思いで、施策体系の様々な箇所に個々に取組を入れている。
- ・施策体系の中では分かりにくい部分もあるので、重点的施策の①「県民主体・地域主体の文化芸術活動の推進」の中で県立美術館の地域との連携と書かせていただいているところ。

### ○くすのき 燕 氏

- ・現行計画の重点的施策の「幼児期、就学期をはじめとする若い世代の文化芸術活動の充実」が、次のステップとして今回の重点的施策②「文化芸術が持つ表現力・創造力の「学び」への展開」に展開していると思うが、子どもにとって表現力や創造力などアウトプットも大事ではあるが、特に小さい子どもはインプットが非常に大事である。文化芸術を感受する力があってこそその表現力や創造力となる。
- ・全ての子ども達が文化芸術に触れるには、学校や幼稚園・保育園などの現場での取組が大事だが、自治体や施設によってかなり開きがある。
- ・全ての長野県内の子どもが、生涯をかけて文化芸術に取り組んだ方の作品に触れられる機会が、年に1回でもあるとよい。
- ・信州アーツカウンシルの助成事業によって、人形芝居燕屋の事業として王滝村の園児9人の保育園で人形劇を行える。このようなバックアップがあれば地域差を埋めていくことにつながる。

- ・ まずは鑑賞機会の確保であり、次に表現機会という順番である。鑑賞機会はまだ十分に保証されていない。

#### ○小澤 櫻作 氏

- ・ 第6「施策の展開」の中に、「文化芸術の実践者に関する情報発信」や「文化芸術の実践者と支援者との出会いの促進」があるが、様々な表現活動をいかにして持続させていくかというところに大きな課題があり、情報発信や支援者との出会いには大きな期待がある。
- ・ 「施策の展開」の「地域の文化芸術の推進力の強化」や、第7の「文化芸術行政の推進体制」にも繋がってくる話であり、長野県文化振興事業団や信州アーツカウンシルの専門人材が、文化芸術活動を行う人々の課題と向き合って、ヒントとなるような情報提供が行える体制ができていとよい。

#### ○金井 直 氏（座長）

- ・ めざす姿の（1）がアクセシビリティ、オープンであり公平であることに重きをおいており、（2）がダイバーシティ、多様性に呼びかけるところであり、（3）がサステナビリティに関わる。この大切なバランスが全体の構造のなかで見えてくるとよい。

#### ○塚越 亮 氏

- ・ 第7の「文化芸術行政の推進体制」として、「長野県」「信州アーツカウンシル」「長野県文化振興事業団」「市町村」「民間団体・大学等」とあるが、企業についても書いてもよいのではないか。
- ・ 企業に対して文化芸術振興で期待する部分をピックアップしてもよいかと思った。

#### ○岩下文化政策課長

- ・ 現行計画は県の関係機関しか記載がないが、これからの文化芸術振興には、県の関係機関だけでは限界がある。
- ・ 市町村との連携は当然ながら、民間団体や大学もパートナーという思いで今回記載している。
- ・ 企業にも参加していただくことは我々も期待するところであり、検討したい。

#### ○石川 利江 氏

- ・ 県立美術館や県立文化会館が上位組織的に位置するのではなく、例えば年によって南信や北信濃をフィーチャーして県立美術館としてプロジェクトを行うなど、単に作品の貸し出しや講師派遣だけではない、もう少し血が通ったかたちで県立の機関がより各地で一緒に学び合ったりできる可能性はないかとと思っている。

#### ○金井 直 氏（座長）

- ・ 地域への巡回展のリズムは生まれているが、さらにもう一歩というところか。例えば「シンビズム」で実現したことを、県立美術館も加わって発展させることはできないか。

- ・県内各地域でのリサーチに県立美術館が主体的に関わるなど、可能なことはいろいろあると思っている。

#### ○石川 利江 氏

- ・青森県立美術館では「旅するケンピ」として、単に所蔵作品を貸し出すだけでない、面白い取組を行っている。これからの県立組織のあり方の一つの例になると思う。

#### ○ロジャー・マクドナルド氏

- ・文化芸術とは固定していない、生きているものだと思うが、この計画の中でもその伸び縮みを反映する余地があるのではないか。
- ・2つ例を挙げると、一つはいま地球上で起きている気候変動の危機がある。近年は今まで災害がなかった国・地域でも頻繁に自然災害が発生しており、長野県でもこれからの5年間で災害が発生する可能性がある。激しく変化する環境の中で、長野県の文化芸術が適用できるかという観点がある。
- ・もう一つはデジタル化であり、Z世代と呼ばれる人たちは文化芸術体験をデジタル画面上で行っている。グローバル的に見てもアート業界は大きく影響を受けており、マーケットや芸術家の仕事のあり方など、デジタル化によるさらなる拡張が予見できる。
- ・これからも文化芸術の領域は外からの変化や文化芸術の中での変化によって大きく変わっていくことが予想され、そのような変化に適用できるかが重要になる。

#### ○金井 直 氏（座長）

- ・マクドナルド氏の挙げた例は過去2回の懇談会の議論でも出てきた観点であり、今回の素案の中では後ろの方に下がってしまっているが、もう一度確認する作業が必要ではないか。
- ・重点的施策の3つは間違いない内容ではあるが、そこに長野らしさを加味するには、いま上げていただいた環境へ視座や、デジタルトランスフォーメーション（DX）の中での文化芸術など、もっと語られるとよい。長野県のような土地だからこそDXの恩恵も大きいのではないか。

#### ○櫻井 弘人 氏

- ・第4「長野県の文化の特性」に2「交流を生み出す地理的要素」とあるが、下伊那地域に住んでいる者からすると交流が盛んとは思えない。地域間の交流をどうするかは大きな課題であり、それが基本目標の「つなげる」にもつながってくると思う。
- ・第7「文化芸術行政の推進体制」の、県立歴史館の2番目の●の「歴史」は「歴史文化」としたほうがよい。県の施設で伝統文化の調査、研究、記録を担えるのは歴史館しかない。
- ・地域が疲弊しており、廃屋が目立つ状況となっている。  
このような課題に対して文化芸術の計画がどのように応えていくのが重要な問題だと思っており、もう少し前に出ててもよいのではないか。

#### ○小澤 櫻作 氏

- ・第8の「評価・検証」について、私が常に気にしていることは、入場者数だけではない「役割」を数値で表すことが難しいということであり、そのためには「見せる化」が必要ということ。
- ・多くの県民に見ていただけるような記録・アーカイブや情報発信ができると、持続可能な活動につながるのではないかと。

#### ○金井 直 氏（座長）

- ・施策体系の1（2）③で「文化芸術情報の発信」とあるが、文化芸術の発信には、受信という観点もある。県民が等しく文化芸術情報を受信できる仕組みづくりができると、アクセシビリティの観点からよりバランスがとれていくのではないかと。

#### ○直井 恵 氏

- ・文化芸術施策の評価は、例えば予算化したり専門家を入れるなど、ひとつの取組と同じくらい大事なことだと思う。
- ・数ではないところの評価をきちんと行う必要性を感じている。
- ・文化芸術を受け取った人がどう変化したかという観点で、例えば家に引きこもっていた人が芸術文化に触れて一歩外に出たといったことをどう評価するのか。数にすると1つではあるが、こういった状態の変化がいろいろな場で起こっており、しっかりと捉えていく必要があると思う。

#### ○金井 直 氏（座長）（まとめ）

- ・文化芸術にいかにアクセスするのかというのが今回の入口の議論であったが、「全ての人に「誰もが」」をどう実現するのか、計画にさらに書き加えられればと思う。
- ・関連して、実際問題として地域差が文化芸術の面でも実感されており、今後拡大する予感もあるなかで、県としてどう施策を打ち出していくのかという観点も重要。
- ・また、持続可能性を強調する上では評価の問題が肝心。数字や情報をどのように記述して次へと生かしていくのか、丁寧に向き合っていける仕組みづくりが大事である。

（終）